

会議録（要点筆記）

会 議 名	第1回米原市自治基本条例推進委員会
開 催 日 時	平成25年10月21日（月）午後3時00分～午後5時00分
開 催 場 所	米原庁舎 2A会議室
出席者および欠席者	出席者：今川委員、井上委員、福井委員、吉原委員、安田委員、 保正委員、岩山委員、福永委員、岡委員、垣見委員 平尾米原市長 【事務局】山田政策調整課長、西村政策調整課長補佐、坂主査、三輪主任、 傍聴：なし 欠席者：戸田委員
議 題	委員委嘱、委員長、副委員長選出、研修会
結 論	委員長：今川 晃委員 副委員長：井上芳恵委員 ※今回は議論による結論は無し
審 議 経 過 （主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。）	<p>1. 市長あいさつ</p> <p>自治基本条例は、合併した新市として何をよりどころにしてまちづくりをしていけばよいかという議論の中、合併市として前に進むためにまちづくりの憲法として制定した。</p> <p>策定は合併前の近江町も一緒になりつくる会で議論を進め、その中で自治基本条例を市民の立場に立って推進していく組織が必要であることから条例に推進委員会を入れている。</p> <p>米原市では昨日市会議員の選挙が終わった。確実に時代は動いている。市民の意識は市政に対して、政治に対してアプローチを始めている。</p> <p>自治基本条例を中心とした「市民が主役」であること、市民の思いが市政や政治に反映されていることが市民にとって快適で、自分達のまちを自分で動かしているという意識が生まれにくい限り、何のための自治基本条例なのかと思わなくてはいけない。常に市民の意向にどれだけ沿っているのか問いながら市政を進めていきたい。</p> <p>帝塚山大学の中川先生の講演でも、本当の意味での少子化、高齢化、人口減少による地域疲弊、このまちの将来は足元を見れば簡単に想像はできてしまう。この状況のまま何もせず過ごしていいのか。私たちの次代に対する責任を問われることになるという話を聞いた。本気になって知恵を出し、工夫を重ね次代を作っていくという気概を持たなくては、次代に使い物にならないものばかり残すことになる。人口は減り予算規模は小さくなったとしてもみんなが納得している、自分の思いでまちづくりが進んでいる、そういうまちになるべきだろうと思っている。</p> <p>ぜひこの自治基本条例を真ん中においた市政を進めていくために、今期就任を御承諾いただいた委員のみなさんには、御苦勞、お知恵をお借りしたい。</p>

2. 委嘱状交付
3. 委員および事務局の紹介
4. 委員長、副委員長の選出

互選により委員長に今川委員、副委員長に井上委員が選出

5. 研修（内容別紙参照）

「自治基本条例の役割」

講師 同志社大学政策学部教授 今川 晃 氏

（意見交換）

・市民の無関心さを感じる。良い条例があっても無関心ではどうしようもないと感じている。

・一人でも多くの人に関心を持ってもらうために、このような委員会がなくてはならない。みんなが何とかしていかないとという気持ちをいかに引き出せるか。拠り所となる条例があって、あきらめずにやっていく必要がある。行政も変わっていく必要がある。

・高齢化、子どもの問題。今までこの委員会で検討したことで前進したことは？→個別の課題については直接反映しにくい、そのための情報公開が進んだり、市民参画による計画づくりは進んでいると思う。また、10月から地域担当職員制度も始めている。

・素晴らしい条例が米原にはある。もっと市民が知るべき。

・小さなコミュニティでの活動も、子どもがいないという現状、高齢者が集まる場面が無くなっている。面倒なことはやめて、簡略化する考え方。この面倒なことの大切さをわかってもらえるよう、ひとつひとつやっていくしかないと考えている。

・今の世の中、思いやりが無い。相手の気持ちをくみ取る、感謝する気持ちが無い。今は、直接会って、話を聴くという場面が無い。時代が便利になり過ぎて、つながりがない。

・リタイヤした人が自警団を作っている。役目があるというのは良いこと。道で学生が挨拶をしてくれるのを嬉しく感じる。

（市長）

地域社会の形は変わってきている。以前はあたりまえにお年寄りの集まる場所があり、あたりまえのように助け合いがあった。そこで今、改めて地域に高齢者が集まる場を作っている。助けてもらう高齢者だけではなく、人のために働ける高齢者がいっぱいいる。そんなお年寄りの暮らし方を今実践しないと、子や孫はドライな生き方をするのが人間だと思って育って行くことは、日本の社会として恥ずかしい。私は世代責任という言葉を使っている。自治基本条例の中で、みんなが関わっていく必要がある。

市民が気付きをもって、アクションをおこしていただくこと。行政の事は首長や議員に任せておけばよいというものではない、という議論が自治基本条例策定の中であった。

先ほど話にあった子どもがいないという事実、これは深刻である。私がおっとも深刻に思っているのは、少子化問題である。結婚しない若者、その前の出会いを作る。こんなことを行政がやるのかという思いもあるが、やらなくてはならない。

地域の思いを聴いていく地域担当職員制度も始めている。

また市民投票について。首長や議員は、民意をすべて代表しているかと言うと、全てそうとは言えないのではないか。間接民主主義を、直接民主主義である市民投票で補完させたい。個人の思いとして市民投票条例は必要であると思っている。米原市の民主主義の方向性を出していきたい。

今川先生の話で出た「人間関係」というキーワード。いよいよ人間と人間の関係に価値を見出す時代。お金や経済以上に大切なものがある、例えば感謝する気持ち、そんな当たり前であったが忘れてしまったものなど色々と話が出始めている。団塊の世代はこのままではまずいぞと、危機感を持ち始めている。それを今若い世代に伝えていくためにも自治基本条例推進委員会で議論を進めていっていただきたい。

6. 「米原市自治基本条例ができるまで」と、「推進委員会のこれまで」について、事務局から説明（配布資料参照）

（意見交換）

- ・職員の検討チームについて、人数とその活動頻度は。  
→12から15名、活動頻度は年度によるが、今年度は下半期に集中して実施する。
- ・自治基本条例を知らない人がまだ多い。婦人会はかつては女性の社会教育の場であったが、今はそういった場が無い。行政のことを知らない方がほとんどである。社会教育の場が必要だと考える。
- ・地域担当職員制度は職員が大変になるが、自治基本条例のことを勉強していれば、市民もあれもこれもという話にならないはず。
- ・女性のための勉強会をやっても集まってもらうことが難しい。人集めが難しいと感じている。
- ・協働の「協」より響き合うの「響」の方がいいと感じている。
- ・行政は取組を進めておられる。一般の市民の方に条例を知ってもらえるように方策をここで議論をしていきたい。そしてそれぞれが持ち帰っていただいて、実践していただきたい。
- ・広報は斜め読みされている方が多く、あまりじっくり読まれていない。
- ・身近な問題と結び付けて、伝えていくこと。また集まるきっかけを作っていく

	<p>ことが大事と感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人集めが難しい、興味を持ってもらえるような方策が難しい。</li> <li>・地域内が疎遠だとは感じていない。何かがあれば総出に近い形で出ている。その秘訣にはキーマンがいる。そういった人材を少しでも増やしていくことが重要であると感じている。</li> <li>・自治基本条例の周知の仕方、いろいろな方法があるので、これから考えていきたい。</li> </ul> <p>事務局</p> <p>女性に多い委員会。こういう場で話し合うことからスタートしていきたい。市民投票条例についても御議論いただきたい。</p> <p>7. 次回の予定</p> <p>平成 26 年 1 月 31 日（水）15 時から会場は同じ</p> <p>※今年度は次回が最後の委員会</p>
--	--

<p>会議の公開・非公開の別</p>	<p>■公開 傍聴者：<u> 1 人</u></p> <p><input type="checkbox"/>一部公開</p> <p><input type="checkbox"/>非公開</p> <p>一部公開または非公開とした理由 ( )</p>
<p>会議録の開示・非開示の別</p>	<p>■開示</p> <p><input type="checkbox"/>一部開示（根拠法令等： )</p> <p><input type="checkbox"/>非開示（根拠法令等： )</p>
<p>全部記録の有無</p>	<p>会議の全部記録 <input type="checkbox"/>有 <input checked="" type="checkbox"/>無</p> <p>録音テープ記録 <input checked="" type="checkbox"/>有 <input type="checkbox"/>無</p>
<p>担当課</p>	<p>政策調整課 (内線91-244)</p>